

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書
【提出先】 関東財務局長
【提出日】 平成28年5月27日
【計算期間】 第15期（自平成27年2月28日 至平成28年2月29日）
【ファンド名】 三菱UFJ 国内バランス50
【発行者名】 三菱UFJ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】 取締役社長 金上 孝
【本店の所在の場所】 東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】 伊藤 晃
【連絡場所】 東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【電話番号】 03-6250-4740
【縦覧に供する場所】 該当ありません

【提出書類】 募集事項等記載書面
【提出先】 関東財務局長
【提出日】 平成28年5月27日
【発行者名】 三菱UFJ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】 取締役社長 金上 孝
【届出の対象とした募集内国投資信託受
益証券に係るファンドの名称】 三菱UFJ 国内バランス50
【届出の対象とした募集内国投資信託受
益証券の金額】 継続募集額 上限1兆円
【縦覧に供する場所】 該当ありません

（注）金融商品取引法（昭和23年法律第25号）第5条第12項の規定により、募集事項等記載書面を有価証券報告書と併せて提出することにより、有価証券届出書を提出したものとみなされます。

【証券情報】**(1) 【ファンドの名称】**

三菱UFJ 国内バランス50（「ファンド」といいます。）
ファンドの愛称を「夢列島50」とします。

(2) 【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型証券投資信託です。

当初元本は1口当たり1円です。

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付または信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律（「社振法」といいます。）の規定の適用を受け、受益権の帰属は、後記の「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関（社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、「振替機関等」といいます。）の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります（振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。）。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

(3) 【発行（売出）価額の総額】

1兆円を上限とします。

(4) 【発行（売出）価格】

取得申込受付日の基準価額とします。

基準価額は、販売会社にてご確認いただけます。

また、原則として、計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。

（略称：夢列島50）

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：毎営業日の9:00～17:00）

ホームページアドレス <http://www.am.mufg.jp/>

（注）基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権総口数で除して得た額をいいます。

なお、当ファンドでは1万口当たりの価額で表示されます。

毎営業日とは、土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日ならびに12月31日、1月2日および1月3日以外の日とします。以下、同じ。

(5) 【申込手数料】

申込価額（発行価格）×2.16%（税抜2%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込手数料は販売会社にご確認ください。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：毎営業日の9:00～17:00）

申込みには分配金受取りコース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

消費税および地方消費税に相当する金額（「消費税等相当額」といいます。）を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。

(6) 【申込単位】

申込単位は販売会社にご確認ください。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：毎営業日の9:00～17:00）

分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については1口単位とします。

(7) 【申込期間】

平成28年5月28日から平成29年5月26日までです。

(注)上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

(8) 【申込取扱場所】

販売会社において申込みの取扱いを行います。

販売会社は、下記にてご確認ください。

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034 (受付時間: 毎営業日の9:00~17:00)

(9) 【払込期日】

取得申込者は、申込金額および申込手数料(税込)を販売会社が定める日までに支払うものとします。

払込期日は販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。

振替受益権に係る各取得申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

(10) 【払込取扱場所】

申込みを受け付けた販売会社とします。

(11) 【振替機関に関する事項】

ファンドの受益権の振替機関は、株式会社証券保管振替機構です。

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、振替機関の振替業に係る業務規程等の規則にしたがって取り扱われるものとします。ファンドの分配金、償還金、解約代金は、社振法および振替機関の業務規程その他の規則にしたがって支払われます。

(12) 【その他】

該当事項はありません。

【有価証券報告書】

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、信託財産の成長をめざして運用を行います。

信託金の限度額は、5,000億円です。

当ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品の分類方法において、以下の商品分類および属性区分に該当します。

商品分類表

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)	独立区分	補足分類
単位型	国内	株式	MMF	インデックス型
	海外	債券	MRF	
追加型	内外	不動産投信	ETF	特殊型 ()
		その他資産 ()		
		資産複合		

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替 ヘッジ	対象 インデックス	特殊型
株式	年1回	グローバル	ファミリー	あり	日経225	ブル・ベア型
一般	年2回	日本	ファンド	()		
大型株	年4回	北米			TOPIX	条件付運用型
中小型株	年6回	欧州	ファンド・	なし		
債券	(隔月)	アジア	オブ・		その他	ロング・
一般	年12回	オセアニア	ファンズ		()	ショート型/ 絶対収益 追求型
公債	(毎月)	中南米				
社債	日々	アフリカ				
その他債券	その他	中近東				
クレジット	()	(中東)				その他
属性		エマージング				()
()						
不動産投信						
その他資産						
(投資信託証						
券(資産複合						
(株式、債						
券))						
資産複合						
()						

当ファンドが該当する商品分類・属性区分を網掛け表示しています。

ファミリーファンド、ファンド・オブ・ファンズに該当する場合、投資信託証券を通じて投資収益の源泉となる資産に投資しますので商品分類表と属性区分表の投資対象資産は異なります。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載していません。

商品分類の定義

単位型・追加型	単位型	当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいいます。
	追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
投資対象地域	国内	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	海外	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	内外	信託約款において、国内および海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資対象資産	株式	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	債券	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	不動産投信（リート）	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	その他資産	信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式、債券および不動産投信以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	資産複合	信託約款において、株式、債券、不動産投信およびその他資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいいます。
独立区分	MMF（マネー・マネージメント・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MMF等の運営に関する規則」に規定するMMFをいいます。
	MRF（マネー・リザーブ・ファンド）	一般社団法人投資信託協会が定める「MMF等の運営に関する規則」に規定するMRFをいいます。
	ETF	投資信託及び投資法人に関する法律施行令（平成12年政令480号）第12条第1号および第2号に規定する証券投資信託ならびに租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいいます。
補足分類	インデックス型	信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	特殊型	信託約款において、投資家（受益者）に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

属性区分の定義

投資対象 資産	株式	一般	次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		大型株	信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
		中小型株	信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいいます。
	債券	一般	次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいいます。
		公債	信託約款において、日本国または各国の政府の発行する国債（地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含みます。以下同じ。）に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		社債	信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		その他債券	信託約款において、公債または社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいいます。
		クレジット属性	目論見書または信託約款において、信用力が高い債券に選別して投資する、あるいは投資適格債（BBB格相当以上）を投資対象の範囲とする旨の記載があるものについて高格付債、ハイイールド債等（BB格相当以下）を主要投資対象とする旨の記載があるものについて低格付債を債券の属性として併記します。
	不動産投信	信託約款において、主として不動産投信に投資する旨の記載があるものをいいます。	
	その他資産	信託約款において、主として株式、債券および不動産投信以外に投資する旨の記載があるものをいいます。	
資産複合	信託約款において、複数資産を投資対象とする旨の記載があるものをいいます。		
決算頻度	年1回	信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。	
	年2回	信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいいます。	
	年4回	信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいいます。	
	年6回（隔月）	信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいいます。	
	年12回（毎月）	信託約款において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるものをいいます。	
	日々	信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいいます。	
	その他	上記属性にあてはまらない全てのものをいいます。	

投資対象地域	グローバル	信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	日本	信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	北米	信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	欧州	信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アジア	信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	オセアニア	信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中南米	信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	アフリカ	信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	中近東（中東）	信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
	エマージング	信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域（新興成長国（地域））の資産（一部組み入れている場合等を除きます。）を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
投資形態	ファミリーファンド	信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除きます。）を投資対象として投資するものをいいます。
	ファンド・オブ・ファンズ	一般社団法人投資信託協会が定める「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいいます。
為替ヘッジ	あり	信託約款において、為替のフルヘッジまたは一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいいます。
	なし	信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるものまたは為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいいます。
対象インデックス	日経225	信託約款において、日経225に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	TOPIX	信託約款において、TOPIXに連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記以外の指数に連動する運用成果を目指す旨またはそれに準じる記載があるものをいいます。
特殊型	ブル・ベア型	信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動もしくは逆連動（一定倍の連動もしくは逆連動を含みます。）を目指す旨の記載があるものをいいます。
	条件付運用型	信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいいます。
	ロング・ショート型 / 絶対収益追求型	信託約款において、ロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨もしくは特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨の記載があるものをいいます。
	その他	信託約款において、上記特殊型に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいいます。

上記定義は一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」を基に委託会社が作成したものです。

〔ファンドの目的・特色〕

ファンドの目的

わが国の株式・債券を実質的な主要投資対象とし、分散投資を行うことにより、値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色

特色 1

わが国の株式・債券に分散投資を行うバランス型のファンドです。

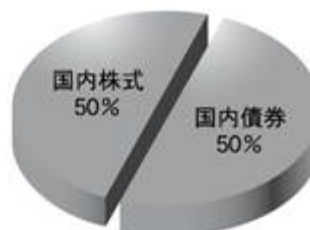
・外貨建資産への投資は行いません。

特色 2

原則として各資産への実質投資比率は、国内株式50%、国内債券50%程度とします。

- ・国内株式への投資は「日本株式マザーファンド」、国内債券への投資は「日本債券マザーファンド」・「日本短期債券マザーファンド」を通じて行い、信託財産の成長をめざして運用を行います。
- ・2つの債券マザーファンド間の投資比率については、金利情勢等を勘案し機動的に変動させます。

三菱UFJ国内バランス50「夢列島50」は、原則として国内株式に50%投資します。



＜マザーファンドの概要＞

日本株式マザーファンド

基本方針	東証株価指数(TOPIX)をベンチマーク ^{※1} とし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
投資態度	ボトムアップ・アプローチによる銘柄選定を行います。銘柄選定の基準として、主として利益成長性に着目します。 業種配分は、東証株価指数(TOPIX)の業種比率を参考にしますが、各業種の予想利益成長率等を勘案して決定します。 株式組入比率は高位を維持することを基本とします。

※1 ベンチマークとは、ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標です。

日本債券マザーファンド

基本方針	NOMURA-BPI総合インデックスをベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	わが国の公社債を主要投資対象とします。
投資態度	ポートフォリオのデュレーション ^{※2} 調整と銘柄選定による収益獲得をめざして運用を行います。 ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。 銘柄選定は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。

※2 デュレーションとは、債券の投資元本の回収に要する平均残存期間や金利感応度を意味する指標です。
この値が大きいくほど、金利変動に対する債券価格の変動率が大きくなります。

日本短期債券マザーファンド

基本方針	NOMURA－BPI短期インデックスをベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。
投資対象	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。
投資態度	ポートフォリオのデュレーション調整と銘柄選定による収益獲得をめざして運用を行います。ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。銘柄選定は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。

＜各マザーファンドの運用プロセス＞

・日本株式マザーファンド

わが国の上場株式等

↓
第1次選別

(定量・定性分析による銘柄選定)

定量分析…成長性、収益性の観点から選んだ指標に基づいてスクリーニング

定性分析…以下のようなチェック項目により成長性を評価

- ・マネジメント改革
- ・資産効率の向上
- ・主力事業の持続的成長力
- ・新規事業の育成
- ・グローバル(グループ)経営志向
- ・政策の影響

定点観測…業種動向を把握するため、必要不可欠な主要銘柄等を選定して継続的にフォローアップ

↓
第2次選別

アナリストおよびファンドマネジャーによる企業訪問調査

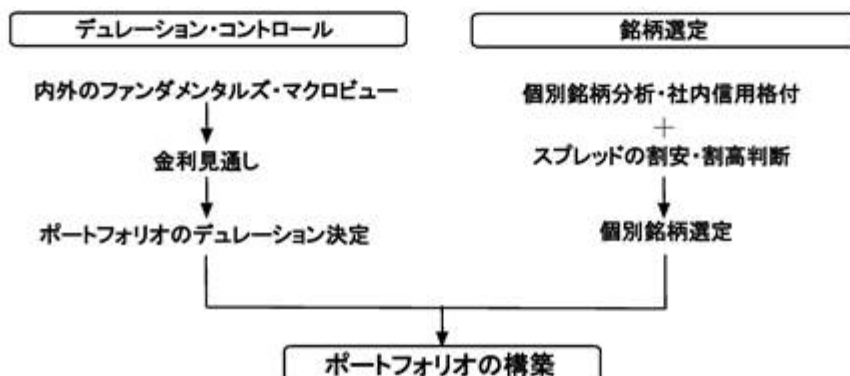
- ・事前調査結果の確認
- ・成長性評価ポイントに基づくチェック
- ・中長期的なEPS(1株当たり利益)^{※3}を予想

予想したEPSから導かれるPER(株価収益率)^{※4}等を基本に、投資タイミングを判断↓
ポートフォリオ構築

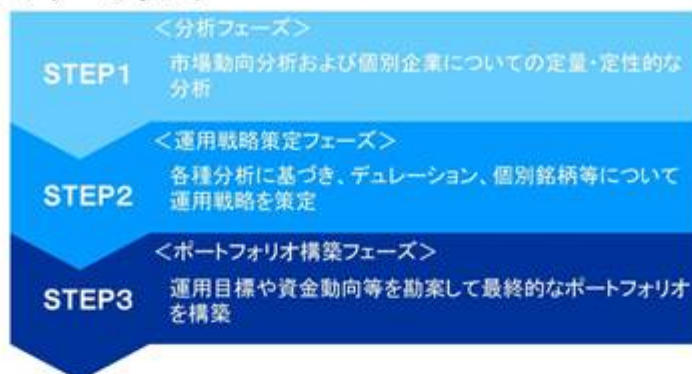
※3 EPS(1株当たり利益)とは、Earnings Per Shareの略で、税引き後純利益を発行済み株式総数で割って求められる指標です。1年間の税引き利益が1株当たりどのくらいになるかを表します。

※4 PER(株価収益率)とは、Price Earnings Ratioの略で、株価を1株当たり利益で割って求められる指標です。この数値が低いほど収益性と比較して株価は割安だと評価されます。

・日本債券マザーファンド



・日本短期債券マザーファンド



！ 上記の各運用プロセスは銘柄選定等の視点を示したものであり、実際にファンドで投資する銘柄が常に上記の条件を満たすわけではありません。また、市場環境等によっては上記のような運用ができない場合があります。なお、今後、変更される場合があります。

☞ 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<http://www.am.mufg.jp/corp/operation/fm.html>)でご覧いただけます。

■ファンドの仕組み

運用は主に各マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式・債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



■主な投資制限

- ・株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の60%以下とします。
- ・同一銘柄の株式への実質投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。
- ・デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

■分配方針

- ・年1回の決算時(2月27日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。
- ・分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。
- ・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

指数について

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

NOMURA-BPI総合インデックスとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。

NOMURA-BPI短期インデックスとは、NOMURA-BPI総合インデックスのサブインデックスで、残存期間1年から3年の債券で構成されています。NOMURA-BPI総合インデックスおよびNOMURA-BPI短期インデックスは野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し野村證券株式会社は一切関係ありません。

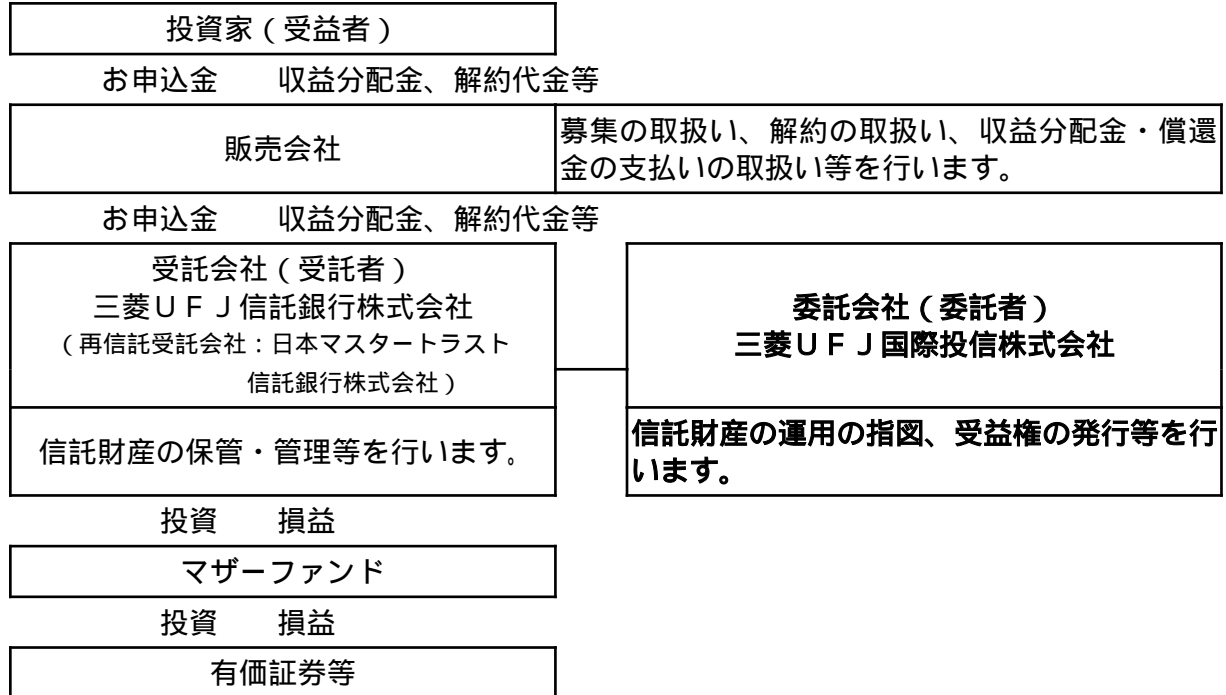
市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2) 【ファンドの沿革】

平成13年2月28日	設定日、信託契約締結、運用開始
平成13年4月2日	名称を「パートナーズ国内バランス50」から「UFJパートナーズ国内バランス50」に変更
平成17年10月1日	ファンドの委託会社としての業務をユーエフジェイパートナーズ投信株式会社から三菱UFJ投信株式会社に承継 名称を「UFJパートナーズ国内バランス50」から「三菱UFJ国内バランス50」に変更

(3) 【ファンドの仕組み】

委託会社およびファンドの関係法人の役割



委託会社と関係法人との契約の概要

	概要
委託会社と受託会社との契約 「信託契約」	運用に関する事項、委託会社および受託会社としての業務に関する事項、受益者に関する事項等が定められています。 なお、信託契約は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づきあらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容で締結されます。
委託会社と販売会社との契約 「募集・販売の取扱い等に関する契約」	販売会社の募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱いに係る事務の内容等が定められています。

委託会社の概況

- ・資本金
2,000百万円（平成28年3月末現在）
- ・沿革

平成9年5月	東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始
平成16年10月	東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更
平成17年10月	三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更
平成27年7月	三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更

・大株主の状況（平成28年3月末現在）

株主名	住所	所有株式数	所有比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	107,855株	51.0%
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	71,969株	34.0%
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	31,757株	15.0%

2【投資方針】

(1)【投資方針】

日本株式マザーファンド受益証券、日本債券マザーファンド受益証券および日本短期債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、わが国の株式および公社債に直接投資することがあります。

日本株式マザーファンド受益証券に信託財産の純資産総額の50%程度を投資します。組入資産の価格変動に伴う投資比率の見直しは、原則として月1回行うものとし、株式への実質投資比率を50%±5%程度の範囲内とします。

残りの部分は、日本債券マザーファンド受益証券および日本短期債券マザーファンド受益証券へ投資します。これら2本のマザーファンド受益証券間の投資比率については、金利情勢等を勘案して機動的に変動させます。

株式以外の資産への実質投資割合（信託財産に属する株式以外の資産の時価総額と信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の総額に占める株式以外の資産の時価総額の割合を乗じて得た額との合計額が信託財産の総額に占める割合）は、原則として信託財産の総額の75%以下とします。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

(2)【投資対象】

投資の対象とする資産の種類

この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引に係る権利（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める次のものに限ります。）

a. 有価証券先物取引等

b. スワップ取引

ハ. 約束手形

ニ. 金銭債権

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

有価証券の指図範囲

この信託において投資の対象とする有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）は、三菱UFJ国際投信株式会社を委託会社とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託会社とする日本株式マザーファンド、日本債券マザーファンドおよび日本短期債券マザーファンド（「マザーファンド」または「親投資信託」といいます。）の受益証券のほか、次に掲げるものとします。なお、当該有価証券は本邦通貨表示のものに限ります。

1. 株券または新株引受権証書

2. 国債証券

3. 地方債証券

4. 特別の法律により法人の発行する債券

5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）

6. 資産の流動化に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）

7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。)
8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 資産の流動化に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. 資産の流動化に係る特定目的信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第13号で定めるものをいいます。)
11. コマーシャル・ペーパー
12. 新株引受権証券(分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。)および新株予約権証券
13. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、1. から12. の証券または証書の性質を有するもの
14. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
15. 投資証券もしくは新投資口予約権証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。16. において同じ。)で16. で定めるもの以外のもの
16. 投資法人債券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。以下16. において同じ。)または外国投資証券で投資法人債券に類する証券
17. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
18. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
19. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
20. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
21. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
22. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
23. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの

24. 外国の者に対する権利で23. の有価証券の性質を有するもの

なお、1. の証券または証書ならびに13. および19. の証券または証書のうち1. の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2. から6. までの証券ならびに16. の証券ならびに13. および19. の証券または証書のうち2. から6. までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、14. および15. の証券を以下「投資信託証券」といいます。

金融商品の指図範囲

この信託において投資の対象とする金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)は、次に掲げるものとします。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で5. の権利の性質を有するもの

<マザーファンドの概要>

日本株式マザーファンド

(基本方針)

この投資信託は、中長期的に信託財産の成長をめざして運用を行います。

(運用方法)

投資対象

わが国の株式を主要投資対象とします。

投資態度

ボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を行います。銘柄選択の基準として、主として利益成長性に着目します。

業種配分は、東証株価指数（TOPIX）の業種比率を参考にしますが、各業種の予想利益成長率等を勘案して決定します。

株式組入比率は高位を維持することを基本とします。

東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

株式への投資割合に制限を設けません。

新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以下とします。

投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の株式への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。

同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等を行うことができます。

スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

日本債券マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、中長期的に信託財産の成長をめざして運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国の公社債を主要投資対象とします。

投資態度

ポートフォリオのデュレーション調整と銘柄選択による収益獲得をめざして運用を行います。

ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。

銘柄選択は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。

NOMURA - BPI総合インデックスをベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等を行うことができます。

スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

日本短期債券マザーファンド

（基本方針）

この投資信託は、信託財産の安定的な成長をめざして運用を行います。

（運用方法）

投資対象

わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。

投資態度

ポートフォリオのデュレーション調整と銘柄選択による収益獲得をめざして運用を行います。

ポートフォリオのデュレーションはベンチマークの平均を中心に調整します。デュレーション調整は主としてファンダメンタルズ分析に基づく中期的な金利見通しに沿って行います。

銘柄選択は信用リスクと金利スプレッドを定量的・定性的に分析して行います。

NOMURA - BPI短期インデックスをベンチマークとし、同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。

なお、市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

（投資制限）

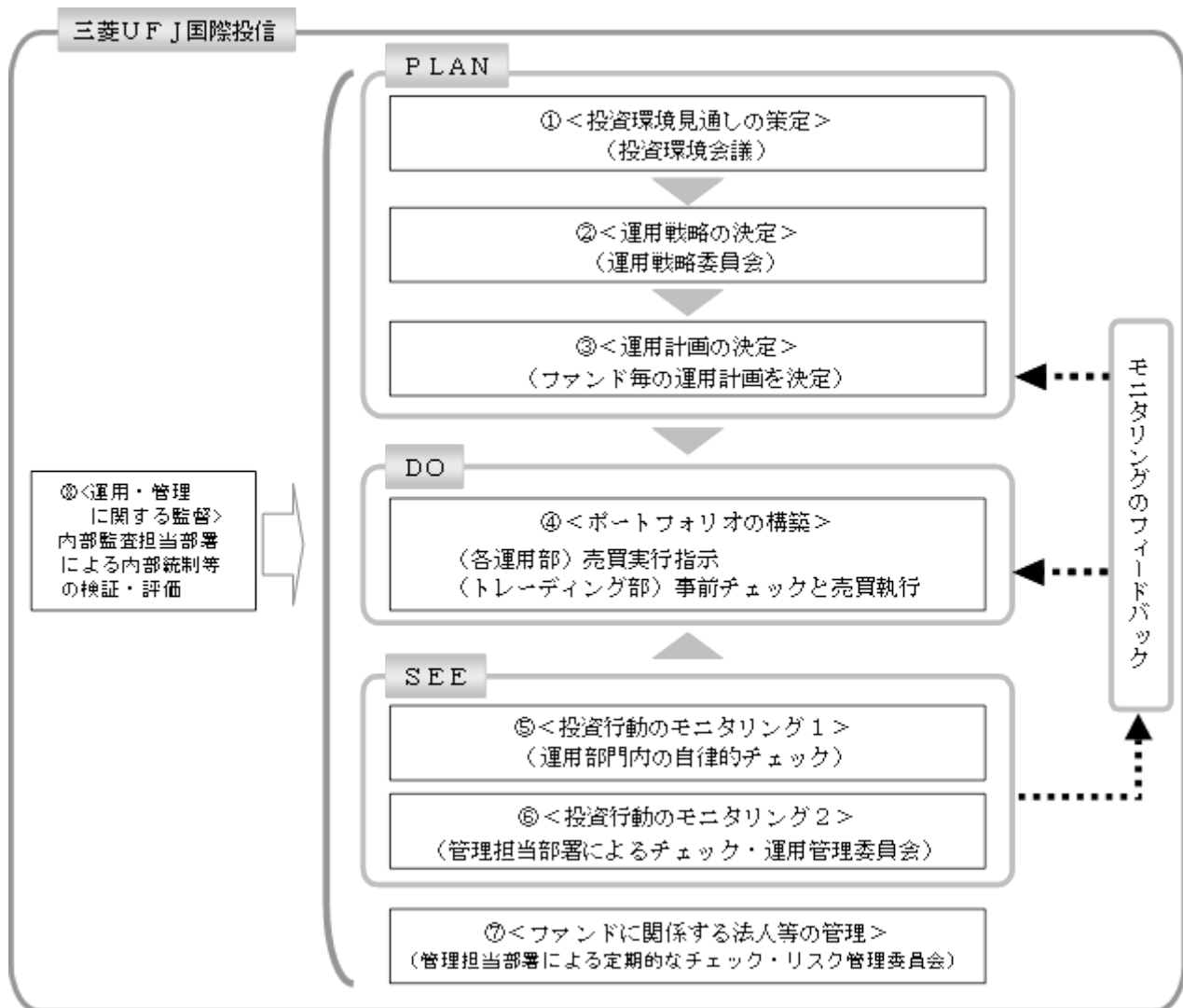
同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

外貨建資産への投資は行いません。

有価証券先物取引等を行うことができます。

スワップ取引は効率的な運用に資するため行うことができます。

（3）【運用体制】



投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

運用戦略の決定

運用戦略委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部門から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

投資行動のモニタリング1

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。

投資行動のモニタリング2

運用部門から独立した管理担当部署は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

ファンドに係る法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に係る法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、リスク管理委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

運用・管理に関する監督

内部監査担当部署(10名程度)は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

さらに、委託会社は、三菱UFJ信託銀行からの投資環境および全資産に関する助言を活用して、質の高い運用サービスの提供に努めています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

(4)【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

収益の分配にあてなかった利益については、信託約款に定める運用の基本方針に基づいて運用を行います。

(5)【投資制限】

< 信託約款に定められた投資制限 >

株式

a. 委託会社は、信託財産に属する株式(株式を組入可能な投資信託証券、新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。以下a.およびb.において同じ。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の60を超えることとなる投資の指図をしません。

b. a.において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

外貨建資産

外貨建資産への投資は行いません。

新株引受権証券および新株予約権証券

a. 委託会社は、取得時において信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

b. a.において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

投資信託証券

a. 委託会社は、信託財産に属する投資信託証券(マザーファンドの受益証券を除きます。以下同じ。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

同一銘柄の株式等

- a. 委託会社は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の株式の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該株式の時価総額の割合を乗じて得た額とします。
- c. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。
- d. c. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

同一銘柄の転換社債等

- a. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債(新株予約権付社債のうち、会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているものならびに会社法施行前の旧商法第341条の3第1項第7号および第8号の定めがあるものをいいます。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
- b. a. において信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該転換社債および当該転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額とします。

スワップ取引

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとし、ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとし、
- d. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとし、

信用取引

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売り付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができます。
- b. a. の信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとし、
1. 信託財産に属する株券および新株引受権証券により取得する株券
 2. 株式分割により取得する株券
 3. 有償増資により取得する株券
 4. 売出しにより取得する株券
 5. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権(に規定する転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。)の行使により取得可能な株券
 6. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債の新株予約権(5. に定めるものを除きます。)の行使により取得可能な株券

有価証券の借入れ

有価証券の借入れを行いません。

資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性を図るため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

投資する株式等の範囲

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものおよび金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券についてはこの限りではありません。
- b. a. の規定にかかわらず、上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては委託会社が投資することを指図することができます。

有価証券の貸付

- a. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸し付けることの指図をすることができます。
 1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
 2. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- b. a. に規定する限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

デリバティブ取引等

デリバティブ取引等（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号に定めるデリバティブ取引をいう。）については、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額として、一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えないこととします。

<その他法令等に定められた投資制限>

- ・同一の法人の発行する株式への投資制限

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

3【投資リスク】

(1) 投資リスク

当ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

価格変動リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け株式や公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

信用リスク

信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

流動性リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている株式や公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

留意事項

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。当ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響する場合があります。

(2) 投資リスクに対する管理体制

「投資リスク」をファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うこと、運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行うこと、を基本の考え方として、投資リスクの管理体制を構築しています。

また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

各投資リスクに関する管理体制は以下の通りです。

価格変動リスク

価格変動リスクは、運用部門において、資産構成比率に関する事項や、その他のファンドのリスク特性に関する事項を主な対象項目として常時把握し、ファンドコンセプトに沿ったリスクの範囲でコントロールしています。

また、価格変動リスクは、運用部門から独立した管理担当部署によってリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行う体制をとっており、この結果は運用管理委員会等に報告されます。

信用リスク

信用リスクについては、運用部門においてリスクの把握、ファンド毎に定められたリスクの範囲での運用、を行っているほか、運用部門から独立した管理担当部署でモニタリングを行うなど、価格変動リスクと同様の管理体制をとっています。

信用リスクは、財務・格付基準に関する事項や、分散投資に関する事項などを主な対象項目として管理していますが、格付等の外形的基準にとどまらず、発行体情報の収集と詳細な分析を行うよう努めています。

流動性リスク

流動性リスクは、運用部門で市場の流動性の把握に努め、投資対象・売買数量等を適切に選択することによりコントロールしています。また、運用部門から独立した管理担当部署においても流動性についての情報収集や分析・管理を行い、この結果は運用管理委員会等に報告されます。

(3) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

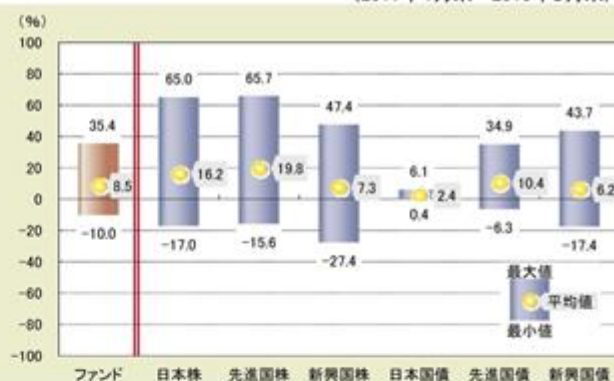
●ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移



- ・ファンドの年間騰落率とは、当該各月末の基準価額(分配金再投資)から当該各月末の1年前の基準価額(分配金再投資)を控除した額を当該各月末の1年前の基準価額(分配金再投資)で除して得た数に100を乗じて得た数をいいます。
- ・ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

●ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2011年4月末～2016年3月末)



・グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

・2011年4月～2016年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

資産クラス	指数名	注記等
日本株	TOPIX(配当込み)	TOPIX(配当込み)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX(配当込み)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の停止またはTOPIX(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPIとは、野村証券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(国債)はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI(国債)は野村証券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村証券株式会社は一切関係ありません。
先進国債	シティ世界国債インデックス(除く日本)	シティ世界国債インデックス(除く日本)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

4【手数料等及び税金】

(1)【申込手数料】

申込価額（発行価格）×2.16%（税抜2%）を上限として販売会社が定める手数料率

申込手数料は販売会社にご確認ください。

なお、下記においてもご照会いただけます。

三菱UFJ国際投信株式会社

お客様専用フリーダイヤル 0120-151034（受付時間：毎営業日の9:00～17:00）

申込みには分配金受取りコース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。

消費税および地方消費税に相当する金額（「消費税等相当額」といいます。）を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。

(2)【換金（解約）手数料】

解約手数料はかかりません。

換金の詳細については販売会社にご確認ください。

(3)【信託報酬等】

委託会社および受託会社の信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、以下により計算されます。

信託財産の純資産総額 × 年1.404%（税抜年1.3%）

1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 ×（保有日数 / 365）

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

委託会社は、信託報酬から、販売会社に対し、販売会社の行う業務に対する報酬を支払います。したがって、実質的な信託報酬の配分は、次の通りとなります。

委託会社	販売会社	受託会社
年0.6588% （税抜年0.61%）	年0.6588% （税抜年0.61%）	年0.0864% （税抜年0.08%）

信託報酬は、毎計算期間の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。

(4)【その他の手数料等】

信託財産に係る監査報酬および当該監査報酬に係る消費税等相当額は、毎計算期間の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立て替えた立替金の利息および借入金の利息は、受益者の負担として信託財産から支払われます。

上記の信託事務の処理に要する諸費用には、有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等が含まれます。

(*)「その他の手数料等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

ご投資家のみなさまにご負担いただく手数料等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。なお、当ファンドが負担する費用（手数料等）の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

費用または費用を対価とする役務の内容について

費用名	直接・間接	説明
申込手数料	直接	商品および投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等の対価
換金（解約）手数料	直接	商品の換金に関する事務手続等の対価
信託財産留保額	直接	信託期間の途中で換金する場合に、換金に必要な費用を賄うため換金代金から控除され、信託財産中に留保される額
信託報酬	間接	（委託会社（再委託先への報酬を含む場合があります。）） ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 （販売会社） 分配金・償還金・換金代金支払等の事務手続き、交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の説明・情報提供等の対価 （受託会社） 投資信託財産の保管・管理、運用指図の実行等の対価
監査報酬	間接	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
売買委託手数料	間接	有価証券等を売買する際に発生する費用
保管費用 （カストディフィー）	間接	外国での資産の保管等に要する費用

上記は一般的な用語について説明したものです。

受益者が直接的に負担する費用か、間接的に負担する費用かの区別です。

（５）【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取り扱われます。

個人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の譲渡益については、次の通り課税されます。

１．収益分配金の課税

普通分配金が配当所得として課税されます。元本払戻金（特別分配金）は課税されません。

原則として、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収（申告不要）されます。なお、確定申告を行い、総合課税（配当控除の適用があります。）・申告分離課税を選択することもできます。

２．解約時および償還時の課税

解約価額および償還価額から取得費（申込手数料（税込）を含みます。）を控除した利益（譲渡益）が譲渡所得とみなされて課税されます。

20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率による申告分離課税が適用されます。

特定口座（源泉徴収選択口座）を利用する場合、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）の税率で源泉徴収され、原則として、申告は不要です。

解約時および償還時の損失（譲渡損）については、確定申告により収益分配金を含む上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択した収益分配金・配当金に限ります。）との損益通算が可能となる仕組みがあります。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算は

できません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

法人の受益者に対する課税

受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、配当所得として15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。なお、益金不算入制度の適用はありません。

買取りの取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。

個別元本について

受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（税込）は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。ただし、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合や、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合等は、個別元本の算出方法が異なる場合があります。

受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

収益分配金について

受益者が収益分配金を受け取る際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

上記は平成28年3月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5【運用状況】

(1)【投資状況】

平成28年3月31日現在
(単位：円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	791,458,617	99.77
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		1,860,284	0.23
純資産総額		793,318,901	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2)【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

a 評価額上位30銘柄

平成28年3月31日現在

国/地域	銘柄	種類	業種	口数	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)	償還期限 (年/月/日)	
日本	日本株式マザーファンド	親投資信託 受益証券		178,609,391	2.1250 2.3024	379,550,945 411,230,261		51.84
日本	日本債券マザーファンド	親投資信託 受益証券		260,948,704	1.4431 1.4571	376,580,244 380,228,356		47.93

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類/業種別投資比率

平成28年3月31日現在

種類/業種別	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.77
合計	99.77

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3)【運用実績】

【純資産の推移】

下記計算期間末日および平成28年3月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額	基準価額 (1万口当たりの純資産価額)
第6計算期間末日 (平成19年 2月27日)	2,854,961,003 (分配付) 2,816,927,121 (分配落)	11,260 (分配付) 11,110 (分配落)
第7計算期間末日 (平成20年 2月27日)	2,397,426,445 (分配付) 2,397,426,445 (分配落)	9,785 (分配付) 9,785 (分配落)
第8計算期間末日 (平成21年 2月27日)	1,719,480,175 (分配付) 1,719,480,175 (分配落)	7,061 (分配付) 7,061 (分配落)
第9計算期間末日 (平成22年 3月 1日)	1,969,006,917 (分配付) 1,969,006,917 (分配落)	7,961 (分配付) 7,961 (分配落)
第10計算期間末日 (平成23年 2月28日)	1,918,680,789 (分配付) 1,918,680,789 (分配落)	8,410 (分配付) 8,410 (分配落)
第11計算期間末日 (平成24年 2月27日)	1,664,282,767 (分配付) 1,664,282,767 (分配落)	8,019 (分配付) 8,019 (分配落)
第12計算期間末日 (平成25年 2月27日)	1,562,685,126 (分配付) 1,562,685,126 (分配落)	8,826 (分配付) 8,826 (分配落)
第13計算期間末日 (平成26年 2月27日)	1,131,156,627 (分配付) 1,114,756,431 (分配落)	10,346 (分配付) 10,196 (分配落)

第14計算期間末日 （平成27年 2月27日）	958,548,469（分配付） 916,209,864（分配落）	11,320（分配付） 10,820（分配落）
第15計算期間末日 （平成28年 2月29日）	766,857,825（分配付） 766,857,825（分配落）	10,365（分配付） 10,365（分配落）
平成27年 3月末日	921,700,596	10,965
4月末日	909,035,807	11,093
5月末日	920,323,973	11,386
6月末日	898,499,843	11,314
7月末日	884,823,367	11,420
8月末日	840,657,060	10,952
9月末日	815,664,698	10,640
10月末日	844,050,020	11,080
11月末日	852,142,613	11,236
12月末日	841,127,603	11,191
平成28年 1月末日	811,777,504	10,872
2月末日	766,857,825	10,365
3月末日	793,318,901	10,836

【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第6計算期間	150円
第7計算期間	0円
第8計算期間	0円
第9計算期間	0円
第10計算期間	0円
第11計算期間	0円
第12計算期間	0円
第13計算期間	150円
第14計算期間	500円
第15計算期間	0円

【収益率の推移】

	収益率（%）
第6計算期間	3.31
第7計算期間	11.92
第8計算期間	27.83
第9計算期間	12.74
第10計算期間	5.63
第11計算期間	4.64
第12計算期間	10.06
第13計算期間	17.22
第14計算期間	11.02
第15計算期間	4.20

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

（4）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第6計算期間	588,881,262	765,725,939	2,535,592,145
第7計算期間	409,000,062	494,429,985	2,450,162,222
第8計算期間	330,724,738	345,616,196	2,435,270,764
第9計算期間	259,628,809	221,506,931	2,473,392,642
第10計算期間	192,832,194	384,908,055	2,281,316,781
第11計算期間	160,958,849	366,891,127	2,075,384,503
第12計算期間	120,625,932	425,446,729	1,770,563,706
第13計算期間	67,184,600	744,401,896	1,093,346,410
第14計算期間	62,946,829	309,521,126	846,772,113
第15計算期間	71,298,045	178,226,346	739,843,812

< 参考 >

「日本株式マザーファンド」

(1) 投資状況

平成28年3月31日現在

(単位：円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
株式	日本	6,064,377,000	96.83
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		198,585,904	3.17
純資産総額		6,262,962,904	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

平成28年3月31日現在

国/ 地域	銘柄	種類	業種	株式数	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
					日本	ペプチドリーム	株式	医薬品
日本	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	367,900	864.52 521.50	318,060,434 191,859,850		3.06
日本	村田製作所	株式	電気機器	12,900	14,942.94 13,570.00	192,763,973 175,053,000		2.80
日本	NTTドコモ	株式	情報・通信業	61,000	2,591.46 2,552.50	158,079,134 155,702,500		2.49
日本	日産自動車	株式	輸送用機器	139,300	1,167.10 1,041.50	162,577,358 145,080,950		2.32
日本	ガリバーインターナショナル	株式	卸売業	101,000	1,203.73 1,401.00	121,576,730 141,501,000		2.26
日本	ダブル・スコープ	株式	電気機器	24,600	3,948.34 5,220.00	97,129,320 128,412,000		2.05
日本	三井不動産	株式	不動産業	45,000	3,395.06 2,808.00	152,777,888 126,360,000		2.02
日本	小野薬品工業	株式	医薬品	26,500	3,080.02 4,765.00	81,620,583 126,272,500		2.02
日本	富士重工業	株式	輸送用機器	30,100	4,345.19 3,975.00	130,790,263 119,647,500		1.91
日本	スタートトゥデイ	株式	小売業	25,000	4,035.00 4,540.00	100,875,000 113,500,000		1.81
日本	日本電産	株式	電気機器	14,600	9,734.95 7,701.00	142,130,270 112,434,600		1.80
日本	東海旅客鉄道	株式	陸運業	5,000	20,490.93 19,905.00	102,454,650 99,525,000		1.59
日本	アウトソーシング	株式	サービス業	25,100	2,844.60 3,880.00	71,399,558 97,388,000		1.55
日本	三井住友フィナンシャルグループ	株式	銀行業	27,500	4,093.38 3,412.00	112,567,950 93,830,000		1.50
日本	ブリヂストン	株式	ゴム製品	22,200	4,216.95 4,205.00	93,616,341 93,351,000		1.49
日本	アニコムホールディングス	株式	保険業	30,100	2,750.43 3,090.00	82,787,943 93,009,000		1.49
日本	東ソー	株式	化学	196,000	581.00 473.00	113,876,767 92,708,000		1.48
日本	中村超硬	株式	機械	16,000	2,808.36 5,610.00	44,933,797 89,760,000		1.43
日本	トヨタ自動車	株式	輸送用機器	14,500	7,689.62 5,952.00	111,499,490 86,304,000		1.38
日本	KDDI	株式	情報・通信業	28,400	3,064.18 3,006.00	87,022,762 85,370,400		1.36
日本	小糸製作所	株式	電気機器	15,200	4,457.00 5,100.00	67,746,400 77,520,000		1.24
日本	共立メンテナンス	株式	サービス業	7,200	7,888.99 9,710.00	56,800,728 69,912,000		1.12
日本	リゾートトラスト	株式	サービス業	27,600	3,118.65 2,529.00	86,074,954 69,800,400		1.11
日本	スクウェア・エニックス・ホールディングス	株式	情報・通信業	22,600	3,120.00 3,040.00	70,512,000 68,704,000		1.10
日本	クスリのアオキ	株式	小売業	11,100	6,091.65 6,150.00	67,617,315 68,265,000		1.09
日本	ソニー	株式	電気機器	23,400	2,913.75 2,893.00	68,181,975 67,696,200		1.08

日本	アコム	株式	その他金融業	118,600	486.31 567.00	57,676,414 67,246,200		1.07
日本	ポーラ・オルビスホールディングス	株式	化学	7,100	7,420.00 9,330.00	52,682,000 66,243,000		1.06
日本	ホシザキ電機	株式	機械	7,000	7,737.55 9,390.00	54,162,850 65,730,000		1.05

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

平成28年3月31日現在

種類 / 業種別		投資比率 (%)
株式	建設業	2.82
	食料品	3.64
	繊維製品	0.93
	化学	7.24
	医薬品	9.65
	ゴム製品	1.49
	ガラス・土石製品	0.83
	鉄鋼	0.95
	非鉄金属	1.99
	機械	6.13
	電気機器	10.88
	輸送用機器	9.71
	精密機器	1.39
	電気・ガス業	0.49
	陸運業	2.04
	情報・通信業	7.94
	卸売業	3.47
	小売業	5.41
	銀行業	5.49
	証券、商品先物取引業	0.98
保険業	2.13	
その他金融業	2.49	
不動産業	2.50	
サービス業	6.24	
合計		96.83

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

< 参考 >

「日本債券マザーファンド」

(1) 投資状況

平成28年3月31日現在

(単位：円)

資産の種類	国 / 地域名	時価合計	投資比率 (%)
国債証券	日本	5,809,661,500	59.71
社債券	日本	3,662,928,000	37.65
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		257,064,582	2.64
純資産総額		9,729,654,082	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

平成28年3月31日現在

国/ 地域	銘柄	種類	業種	券面総額 (千円)	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
日本	第20回みずほ銀行(劣後特約付)	社債券		200,000	107.34 107.4580	214,698,000 214,916,000	1.490000 2022/06/03	2.21
日本	第339回利付国債(10年)	国債証券		200,000	100.28 104.5510	200,570,000 209,102,000	0.400000 2025/06/20	2.15
日本	第10回みずほコーポレート銀行	社債券		200,000	103.93 102.9660	207,878,000 205,932,000	1.945000 2017/10/27	2.12
日本	第39回野村ホールディングス	社債券		200,000	101.55 101.4040	203,100,000 202,808,000	0.853000 2018/02/26	2.08
日本	第43回野村ホールディングス	社債券		200,000	100.97 100.9690	201,944,000 201,938,000	0.454000 2019/02/25	2.08
日本	第12回パナソニック	社債券		200,000	100.09 100.9510	200,198,000 201,902,000	0.387000 2020/03/19	2.08
日本	第19回大和証券グループ本社	社債券		200,000	100.25 100.9180	200,506,000 201,836,000	0.412000 2020/02/25	2.07
日本	第47回日本電気	社債券		200,000	100.00 100.8920	200,018,000 201,784,000	0.412000 2020/07/17	2.07
日本	第4回ビー・エヌ・ピー・パリバ	社債券		200,000	100.36 100.1320	200,724,000 200,264,000	0.530000 2016/09/13	2.06
日本	第10回JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	社債券		200,000	100.28 100.0560	200,568,000 200,112,000	0.462000 2016/06/13	2.06
日本	第145回利付国債(20年)	国債証券		160,000	111.78 123.5180	178,848,200 197,628,800	1.700000 2033/06/20	2.03
日本	第42回利付国債(30年)	国債証券		140,000	111.20 130.0730	155,689,700 182,102,200	1.700000 2044/03/20	1.87
日本	第148回利付国債(20年)	国債証券		150,000	107.18 120.2440	160,779,000 180,366,000	1.500000 2034/03/20	1.85
日本	第125回利付国債(20年)	国債証券		130,000	122.14 129.8970	158,792,600 168,866,100	2.200000 2031/03/20	1.74
日本	第118回利付国債(20年)	国債証券		130,000	117.07 126.1800	152,191,000 164,034,000	2.000000 2030/06/20	1.69
日本	第5回利付国債(40年)	国債証券		110,000	113.98 145.2750	125,380,200 159,802,500	2.000000 2052/03/20	1.64
日本	第334回利付国債(10年)	国債証券		150,000	102.54 106.1020	153,819,000 159,153,000	0.600000 2024/06/20	1.64
日本	第147回利付国債(20年)	国債証券		130,000	109.11 121.9660	141,848,600 158,555,800	1.600000 2033/12/20	1.63
日本	第150回利付国債(20年)	国債証券		130,000	110.75 118.4140	143,977,800 153,938,200	1.400000 2034/09/20	1.58
日本	第114回利付国債(20年)	国債証券		120,000	118.59 127.0530	142,308,000 152,463,600	2.100000 2029/12/20	1.57
日本	第140回利付国債(20年)	国債証券		120,000	111.72 123.3170	134,068,800 147,980,400	1.700000 2032/09/20	1.52
日本	第338回利付国債(10年)	国債証券		140,000	102.36 104.5670	143,307,500 146,393,800	0.400000 2025/03/20	1.50
日本	第123回利付国債(20年)	国債証券		100,000	118.48 128.1610	118,482,000 128,161,000	2.100000 2030/12/20	1.32
日本	第46回利付国債(30年)	国債証券		100,000	106.41 125.6130	106,412,000 125,613,000	1.500000 2045/03/20	1.29
日本	第99回利付国債(20年)	国債証券		100,000	118.14 124.3040	118,141,000 124,304,000	2.100000 2027/12/20	1.28
日本	第80回利付国債(20年)	国債証券		100,000	116.42 120.2840	116,421,000 120,284,000	2.100000 2025/06/20	1.24
日本	第335回利付国債(10年)	国債証券		110,000	101.29 105.3450	111,425,600 115,879,500	0.500000 2024/09/20	1.19
日本	第154回利付国債(20年)	国債証券		100,000	108.74 114.5490	108,745,400 114,549,000	1.200000 2035/09/20	1.18
日本	第104回利付国債(20年)	国債証券		90,000	118.25 125.0320	106,426,800 112,528,800	2.100000 2028/06/20	1.16
日本	第34回利付国債(30年)	国債証券		80,000	118.56 139.1110	94,855,200 111,288,800	2.200000 2041/03/20	1.14

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

平成28年3月31日現在

種類 / 業種別	投資比率(%)
国債証券	59.71
社債券	37.65
合計	97.36

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

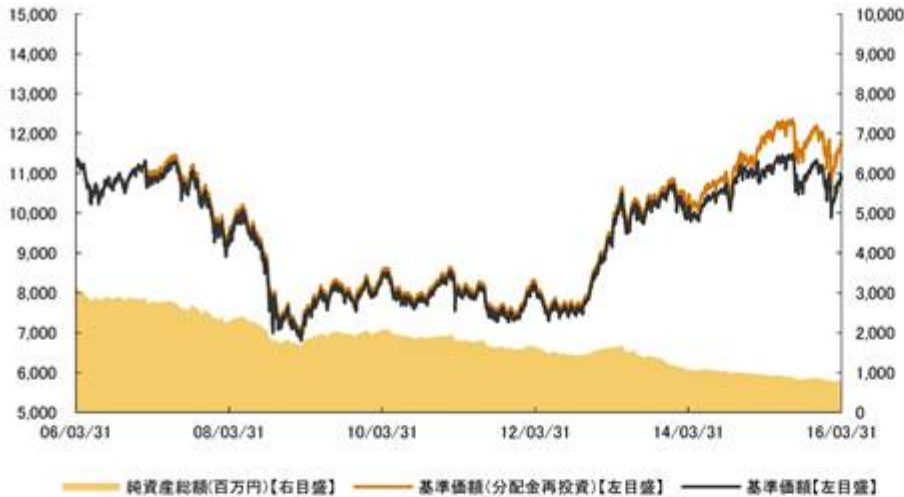
該当事項はありません。

[参考情報]



運用実績

■ 基準価額・純資産の推移 (2006年3月31日～2016年3月31日)



- ・基準価額(分配金再投資)はグラフの起点における基準価額に合わせて指数化
- ・基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を再投資したものとして計算

■ 分配の推移

2016年 2月	0円
2015年 2月	500円
2014年 2月	150円
2013年 2月	0円
2012年 2月	0円
2011年 2月	0円
設定来累計	1,400円

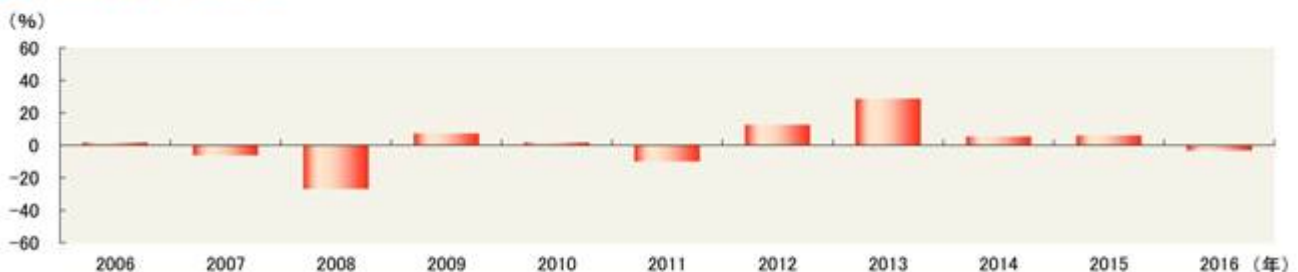
・分配金は1万口当たり、税引前

■ 主要な資産の状況 (2016年3月31日現在)

資産別構成	比率	組入上位銘柄	種類	業種/種別	比率
国内株式	50.2%	ペプチドリーム	株式	医薬品	1.9%
国内債券	46.7%	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	銀行業	1.6%
		村田製作所	株式	電気機器	1.4%
		NTTドコモ	株式	情報・通信業	1.3%
		日産自動車	株式	輸送用機器	1.2%
		第20回みずほ銀行(劣後特約付)	債券	社債	1.1%
		第339回利付国債(10年)	債券	国債	1.0%
		第10回みずほコーポレート銀行	債券	社債	1.0%
		第39回野村ホールディングス	債券	社債	1.0%
		第43回野村ホールディングス	債券	社債	1.0%
コールローン他 (負債控除後)	3.1%				
合計	100.0%				

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・投資信託証券(REITを含む)の組み入れがある場合、株式に含めて表示

■ 年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2016年は3月31日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

- ・ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。
- ・ファンドの運用状況等は別途、委託会社のホームページで開示している場合があります。

第2【管理及び運営】

1【申込（販売）手続等】

申込みの受付	原則として、いつでも申込みができます。
申込単位	販売会社が定める単位
申込価額	申込受付日の基準価額
申込価額の算出頻度	原則として、委託会社の毎営業日に計算されます。
申込単位・申込価額の照会方法	申込単位および申込価額は、販売会社にてご確認いただけます。 また、下記においてもご照会いただけます。 三菱UFJ国際投信株式会社 お客様専用フリーダイヤル 0120-151034 (受付時間：毎営業日の9:00～17:00) なお、申込価額は委託会社のホームページでもご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.am.mufg.jp/
申込手数料	申込価額×2.16%（税抜2%）を上限として販売会社が定める手数料率 分配金再投資コース（累積投資コース）の場合、再投資される収益分配金については、申込手数料はかかりません。 消費税等相当額を含みます。なお、消費税率に応じて変更となることがあります。
申込方法	取得申込者は、販売会社に取引口座を開設のうえ、申込みを行うものとします。 取得申込者は、申込金額および申込手数料（税込）を販売会社が定める日までに支払うものとします。 なお、申込みには分配金受取りコース（一般コース）と分配金再投資コース（累積投資コース）があり、分配金再投資コース（累積投資コース）を選択する場合には、取得申込者と販売会社との間で別に定める累積投資契約（販売会社によっては別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を使用する場合があります、この場合は当該別の名称に読み替えます。）を締結するものとします。申込みコースの取扱いには販売会社により異なる場合がありますので、販売会社にご確認ください。 取得申込者の受益権は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。
申込受付時間	原則、午後3時までに受け付けた取得申込み（当該申込みの受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを）を当日の申込みとします。当該時刻を過ぎた申込みは、翌営業日に受け付けたものとして取り扱います。なお、販売会社によっては、上記より早い時刻に取得申込みを締め切ることとしている場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。
その他	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することおよびすでに受け付けた取得申込みを取り消すことがあります。

2【換金（解約）手続等】

解約の受付	原則として、いつでも解約の請求ができます。
解約単位	1口単位
解約価額	解約請求受付日の基準価額
信託財産留保額	ありません。
解約価額の算出頻度	原則として、委託会社の毎営業日に計算されます。
解約価額の照会方法	解約価額は、販売会社にてご確認いただけます。 なお、下記においてもご照会いただけます。 三菱UFJ国際投信株式会社 お客様専用フリーダイヤル 0120-151034 (受付時間：毎営業日の9:00～17:00) ホームページアドレス http://www.am.mufg.jp/

支払開始日	原則として解約請求受付日から起算して4営業日目から販売会社において支払います。
解約請求受付時間	原則、午後3時までに受け付けた解約請求(当該解約請求の受付に係る販売会社所定の事務手続きが完了したもの)を当日の請求とします。当該時刻を過ぎての請求は、翌営業日に受け付けたものとして取り扱います。なお、販売会社によっては、上記より早い時刻に解約請求を締め切ることとしている場合があります。詳しくは販売会社にご確認ください。
その他	委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することおよびすでに受け付けた解約請求を取り消すことがあります。その場合には、受益者は、当該受付中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受け付けたものとして扱います。 委託会社は、信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の解約請求に制限を設ける場合があります。 受益者の解約請求に係る受益権の口数の減少は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されます。

換金の詳細については販売会社にご確認ください。

3【資産管理等の概要】

(1)【資産の評価】

基準価額の算出方法	<p>基準価額 = 信託財産の純資産総額 ÷ 受益権総口数</p> <p>なお、当ファンドでは1万口当たりの価額で表示されます。</p> <p>(注)「信託財産の純資産総額」とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。</p> <p>(主な評価方法)</p> <p>マザーファンド：計算日における基準価額で評価します。</p> <p>株式：原則として、金融商品取引所における計算日の最終相場で評価します。</p> <p>公社債等：原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値(平均値)、第一種金融商品取引業者・銀行等の提示する価額または価格情報会社の提供する価額のいずれかの価額で評価します。</p>
基準価額の算出頻度	原則として、委託会社の毎営業日に計算されます。
基準価額の照会方法	<p>基準価額は、販売会社にてご確認ください。</p> <p>また、原則として、計算日の翌日付の日本経済新聞朝刊に掲載されます。</p> <p>なお、下記においてもご照会いただけます。</p> <p>三菱UFJ国際投信株式会社 お客様専用フリーダイヤル 0120-151034 (受付時間：毎営業日の9:00～17:00) ホームページアドレス http://www.am.mufg.jp/</p>

(2)【保管】

受益証券の保管	該当事項はありません。
---------	-------------

(3)【信託期間】

信託期間	平成13年2月28日から無期限 ただし、後記「ファンドの償還条件等」の規定によりファンドを償還させることがあります。
------	---

(4) 【計算期間】

計算期間	原則として、毎年2月28日から翌年2月27日まで 上記にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日が休業日のとき、各計算期間終了日は、この該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日はファンドの信託期間終了日とします。
------	---

(5) 【その他】

ファンドの償還条件等	委託会社は、以下の場合には、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、ファンドを償還させることができます。（任意償還） ・受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・信託期間中において、ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき このほか、監督官庁よりファンドの償還の命令を受けたとき、委託会社の登録取消・解散・業務廃止のときは、原則として、ファンドを償還させます。 委託会社は、ファンドを償還しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。
信託約款の変更	委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、法令および信託約款に定める手続きにしたがい、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することができます。委託会社は、信託約款を変更しようとするときは、あらかじめその旨を監督官庁に届け出ます。 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きにしたがいます。
ファンドの償還等に関する開示方法	委託会社は、ファンドの任意償還または信託約款の変更のうち重大な内容の変更を行おうとする場合、あらかじめその旨およびその内容を公告し、かつ、原則としてこれらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。この公告および書面には、原則として、受益者で異議のあるものは一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。
異議申立ておよび反対者の買取請求権	受益者は、委託会社がファンドの任意償還または信託約款について重大な内容の変更を行おうとする場合、原則として、一定の期間（1ヵ月以上）内に委託会社に対して異議を述べるすることができます。異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。なお、一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の2分の1を超えるときは、ファンドの償還または信託約款の変更を行いません。その場合、償還しない旨または信託約款を変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、原則として、これらの事項を記載した書面を受益者に交付します（ただし、この信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。）。
関係法人との契約の更改	委託会社と販売会社との間で締結された「募集・販売の取扱い等に関する契約」の期間は、契約締結日から1ヵ年とし、期間満了3ヵ月前までに相手方に対し、何らの意思表示のないときは、同一の条件で契約を更新するものとし、その後も同様とします。
運用報告書	委託会社は、毎計算期間の末日および償還時に、交付運用報告書を作成し、原則として受益者に交付します。なお、信託約款の内容に委託会社が重要と判断した変更等があった場合は、その内容を交付運用報告書に記載します。
委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い	委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。また、委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

受託会社の辞任および解任に伴う取扱い	受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は、信託約款の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はファンドを償還させます。
信託事務処理の再信託	受託会社は、ファンドの信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託します。日本マスタートラスト信託銀行株式会社は、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。
公告	委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。 http://www.am.mufg.jp/ なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

4【受益者の権利等】

受益者の権利の主な内容は以下の通りです。

収益分配金に対する請求権	<p>受益者は、委託会社の決定した収益分配金を持分にに応じて請求する権利を有します。</p> <p>「分配金受取りコース（一般コース）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益分配金は、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。 ・収益分配金の支払いは、販売会社の営業所等において行います。 ・受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失います。 <p>「分配金再投資コース（累積投資コース）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益分配金は、課税後、原則として毎計算期間の終了日（決算日）の翌営業日に、累積投資契約に基づいて再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。詳しくは販売会社にご確認ください。
償還金に対する請求権	<p>受益者は、持分にに応じて償還金を請求する権利を有します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・償還金は、原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日までに支払いを開始します。 ・償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行います。 ・受益者が、信託終了による償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失います。
換金（解約）請求権	<p>受益者は、自己に帰属する受益権につき、解約を請求する権利を有します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解約代金の支払いは、販売会社の営業所等において行います。 <p>（「2 換金（解約）手続等」をご参照ください。）</p>

第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期(平成27年2月28日から平成28年2月29日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】
【三菱UFJ 国内バランス50】
(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第 14 期 [平成27年2月27日現在]	第 15 期 [平成28年2月29日現在]
資産の部		
流動資産		
金銭信託	-	7,203,077
コール・ローン	52,207,335	575,328
親投資信託受益証券	914,016,574	764,936,960
未収入金	1,274,377	1,480,296
未収利息	85	-
流動資産合計	967,498,371	774,195,661
資産合計	967,498,371	774,195,661
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	42,338,605	-
未払解約金	1,932,320	1,464,738
未払受託者報酬	430,995	360,705
未払委託者報酬	6,572,639	5,500,731
その他未払費用	13,948	11,662
流動負債合計	51,288,507	7,337,836
負債合計	51,288,507	7,337,836
純資産の部		
元本等		
元本	1,846,772,113	1,739,843,812
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	69,437,751	27,014,013
（分配準備積立金）	128,879,125	103,167,676
元本等合計	916,209,864	766,857,825
純資産合計	916,209,864	766,857,825
負債純資産合計	967,498,371	774,195,661

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第 14 期	第 15 期
	自 平成26年 2月28日 至 平成27年 2月27日	自 平成27年 2月28日 至 平成28年 2月29日
営業収益		
受取利息	3,570	3,078
有価証券売買等損益	118,739,283	17,267,663
営業収益合計	118,742,853	17,264,585
営業費用		
受託者報酬	883,748	748,996
委託者報酬	13,477,161	11,422,112
その他費用	28,604	24,218
営業費用合計	14,389,513	12,195,326
営業利益又は営業損失（ ）	104,353,340	29,459,911
経常利益又は経常損失（ ）	104,353,340	29,459,911
当期純利益又は当期純損失（ ）	104,353,340	29,459,911
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	10,353,216	4,863,628
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	21,410,021	69,437,751
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,468,282	6,602,565
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,468,282	6,602,565
剰余金減少額又は欠損金増加額	6,102,071	14,702,764
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	6,102,071	14,702,764
分配金	1 42,338,605	1 -
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	69,437,751	27,014,013

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの計算期間 当ファンドは、原則として毎年2月27日を計算期間の末日としておりますが、当計算期間においては当該日が休業日のため、当計算期間は平成27年2月28日から平成28年2月29日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

	第 14 期 [平成27年2月27日現在]	第 15 期 [平成28年2月29日現在]
1 期首元本額	1,093,346,410円	846,772,113円
期中追加設定元本額	62,946,829円	71,298,045円
期中一部解約元本額	309,521,126円	178,226,346円
2 受益権の総数	846,772,113口	739,843,812口
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0820円 (10,820円)	1.0365円 (10,365円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第 14 期 (自 平成26年2月28日 至 平成27年2月27日)

1 分配金の計算過程

費用控除後の配当等収益額	A	9,648,855円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	80,634,126円
収益調整金額	C	95,031,070円
分配準備積立金額	D	80,934,749円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	266,248,800円
当ファンドの期末残存口数	F	846,772,113口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	3,144円
1万口当たり分配金額	H	500円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	42,338,605円

第 15 期 (自 平成27年2月28日 至 平成28年2月29日)

1 分配金の計算過程

費用控除後の配当等収益額	A	
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	92,638,762円
分配準備積立金額	D	103,167,676円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	195,806,438円
当ファンドの期末残存口数	F	739,843,812口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,646円
1万口当たり分配金額	H	
収益分配金金額	I=F*H/10,000	

(金融商品に関する注記)

1 金融商品の状況に関する事項

区 分	第 14 期 (自 平成26年 2月28日 至 平成27年 2月27日)	第 15 期 (自 平成27年 2月28日 至 平成28年 2月29日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」(昭和26年法律第198号)第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同 左

2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	第 14 期 [平成27年2月27日現在]	第 15 期 [平成28年2月29日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同 左
2 時価の算定方法	<p>売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>同 左</p> <p>同 左</p> <p>同 左</p>
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	同 左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	第 14 期 [平成27年2月27日現在]	第 15 期 [平成28年2月29日現在]
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	
親投資信託受益証券	99,283,165	25,493,737
合計	99,283,165	25,493,737

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

種 類	銘 柄	口数	評 価 額	備 考
親投資信託受益証券	日本株式マザーファンド	169,663,480	359,262,418	
	日本短期債券マザーファンド	71,903,355	80,078,766	
	日本債券マザーファンド	225,778,917	325,595,776	
	親投資信託受益証券 小計	467,345,752	764,936,960	
	合計	467,345,752	764,936,960	

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

<参考>

当ファンドは親投資信託受益証券を主要投資対象としております。
貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券の状況は以下の通りです。

「日本株式マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
金銭信託		153,908,009
コール・ローン	21,865,556	12,293,026
株式	7,704,236,960	5,636,371,710
未収入金	487,359,538	244,145,142
未収配当金	8,491,370	7,784,430
未収利息	35	
流動資産合計	8,221,953,459	6,054,502,317
資産合計	8,221,953,459	6,054,502,317
負債の部		
流動負債		
未払金	358,174,814	281,950,005
未払解約金	36,389,948	40,223,190
流動負債合計	394,564,762	322,173,195
負債合計	394,564,762	322,173,195
純資産の部		
元本等		
元本	1 3,310,935,119	2,707,182,126
剰余金		
剰余金又は欠損金()	4,516,453,578	3,025,146,996
元本等合計	7,827,388,697	5,732,329,122
純資産合計	7,827,388,697	5,732,329,122
負債純資産合計	8,221,953,459	6,054,502,317

(注1) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年7月23日から翌年7月22日までであります。

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
-------------------	---

(貸借対照表に関する注記)

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 期首		
期首元本額	平成26年2月28日 4,603,835,499円	平成27年2月28日 3,310,935,119円
期首からの追加設定元本額	304,097,515円	500,618,921円
期首からの一部解約元本額	1,596,997,895円	1,104,371,914円
元本の内訳*		
三菱UFJ 積立ファンド(日本バランス型)	904,835,245円	771,344,529円
三菱UFJ グローバルバランス(積極型)	229,615,786円	195,707,522円
三菱UFJ グローバルバランス(安定型)	190,690,041円	168,247,238円
三菱UFJ グローバルバランスVA	220,168,894円	88,913,542円
三菱UFJ 日本株ファンド	736,961,235円	574,691,451円
三菱UFJ 日本バランス20	36,878,585円	28,500,937円
三菱UFJ 日本バランス50	115,203,961円	89,623,566円
三菱UFJ 国内株式ファンド	119,469,925円	94,796,381円
三菱UFJ 国内バランス20	364,617,023円	321,151,645円
三菱UFJ 国内バランス50	199,362,436円	169,663,480円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス20型	18,822,855円	21,931,751円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス40型	62,798,395円	68,147,067円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス60型	111,510,738円	114,463,017円
(合計)	3,310,935,119円	2,707,182,126円
2 受益権の総数	3,310,935,119口	2,707,182,126口
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	2.3641円 (23,641円)	2.1175円 (21,175円)

* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区 分	（自平成26年2月28日 至平成27年2月27日）	（自平成27年2月28日 至平成28年2月29日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同 左
2 時価の算定方法	売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	同 左 同 左 同 左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	1,097,760,949	539,376,295
合計	1,097,760,949	539,376,295

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（3）附属明細表

第1 有価証券明細表

（1）株式

（単位：円）

コード	銘 柄 銘 柄 名	株式数	評 価 額		備 考
			単 価	金 額	
1802	大林組	56,600	1,029.00	58,241,400	
1861	熊谷組	120,000	248.00	29,760,000	
1893	五洋建設	68,200	458.00	31,235,600	
1925	大和ハウス工業	10,000	3,090.00	30,900,000	
2206	江崎グリコ	9,900	6,030.00	59,697,000	
2212	山崎製パン	13,000	2,137.00	27,781,000	
2269	明治ホールディングス	6,400	9,060.00	57,984,000	
2802	味の素	10,000	2,766.50	27,665,000	
2815	アリアケジャパン	10,400	6,210.00	64,584,000	
3402	東レ	61,000	902.80	55,070,800	
4042	東ソー	196,000	429.00	84,084,000	
4047	関東電化工業	46,000	887.00	40,802,000	
4109	ステラ ケミファ	22,600	2,463.00	55,663,800	
4183	三井化学	166,000	369.00	61,254,000	
4186	東京応化工業	17,000	2,960.00	50,320,000	
4202	ダイセル	36,200	1,441.00	52,164,200	
4452	花王	10,200	5,699.00	58,129,800	
4612	日本ペイントホールディングス	25,800	2,261.00	58,333,800	
4911	資生堂	12,000	2,459.00	29,508,000	
4927	ポーラ・オルビスホールディングス	7,100	8,300.00	58,930,000	

7988	ニフコ	5,300	5,100.00	27,030,000	
4151	協和発酵キリン	32,000	1,683.00	53,856,000	
4516	日本新薬	14,000	3,870.00	54,180,000	
4519	中外製薬	17,100	3,350.00	57,285,000	
4528	小野薬品工業	6,100	20,915.00	127,581,500	
4587	ペプチドリーム	37,000	4,265.00	157,805,000	
5108	ブリヂストン	18,400	3,953.00	72,735,200	
5413	日新製鋼	45,300	1,337.00	60,566,100	
5741	UACJ	70,000	236.00	16,520,000	
5801	古河電気工業	270,000	241.00	65,070,000	
6136	オーエスジー	6,800	1,906.00	12,960,800	
6166	中村超硬	16,000	4,720.00	75,520,000	
6273	S M C	1,000	26,130.00	26,130,000	
6301	小松製作所	9,000	1,718.50	15,466,500	
6312	フロイント産業	43,200	1,012.00	43,718,400	
6465	ホシザキ電機	7,000	8,740.00	61,180,000	
6473	ジェイテクト	46,900	1,543.00	72,366,700	
7004	日立造船	47,700	538.00	25,662,600	
6594	日本電産	14,600	7,567.00	110,478,200	
6619	ダブル・スコープ	28,800	3,765.00	108,432,000	
6758	ソニー	23,400	2,387.00	55,855,800	
6762	T D K	8,000	5,890.00	47,120,000	
6770	アルプス電気	34,000	1,856.00	63,104,000	
6869	シスメックス	9,600	7,000.00	67,200,000	
6981	村田製作所	12,900	13,565.00	174,988,500	
7276	小糸製作所	15,200	4,975.00	75,620,000	
8035	東京エレクトロン	6,800	6,814.00	46,335,200	
7201	日産自動車	132,300	1,024.50	135,541,350	
7203	トヨタ自動車	14,500	5,897.00	85,506,500	
7205	日野自動車	50,800	1,140.00	57,912,000	
7248	カルソニックカンセイ	96,000	829.00	79,584,000	
7250	太平洋工業	26,800	995.00	26,666,000	
7251	ケーヒン	16,600	1,554.00	25,796,400	
7259	アイシン精機	12,100	4,520.00	54,692,000	
7270	富士重工業	28,000	3,696.00	103,488,000	
7309	シマノ	1,400	17,660.00	24,724,000	
7780	メニコン	20,600	3,360.00	69,216,000	
7856	萩原工業	13,000	1,935.00	25,155,000	
9022	東海旅客鉄道	5,600	20,215.00	113,204,000	
9044	南海電気鉄道	46,000	668.00	30,728,000	
3660	アイスタイル	32,400	807.00	26,146,800	
3769	GMOペイメントゲートウェイ	3,000	6,360.00	19,080,000	
4768	大塚商会	9,800	5,580.00	54,684,000	
9433	K D D I	25,900	2,878.00	74,540,200	
9437	N T T D コモ	46,400	2,641.50	122,565,600	
9684	スクウェア・エニックス・ホールディングス	22,600	2,659.00	60,093,400	
9719	S C S K	14,200	4,335.00	61,557,000	
7599	ガリバーインターナショナル	101,000	1,141.00	115,241,000	
7600	日本エム・ディ・エム	26,400	607.00	16,024,800	
8001	伊藤忠商事	31,100	1,330.50	41,378,550	
8031	三井物産	47,400	1,301.50	61,691,100	
8053	住友商事	28,700	1,111.00	31,885,700	
8058	三菱商事	7,000	1,807.00	12,649,000	
9962	ミスミグループ本社	18,000	1,507.00	27,126,000	
3092	スタートトゥデイ	25,000	3,570.00	89,250,000	
3319	ゴルフダイジェスト・オンライン	55,900	681.00	38,067,900	
3398	クスリのアオキ	11,100	5,010.00	55,611,000	
7453	良品計画	2,800	22,990.00	64,372,000	
7606	ユニテッドアローズ	2,000	5,200.00	10,400,000	
9843	ニトリホールディングス	2,700	8,670.00	23,409,000	
8304	あおぞら銀行	35,000	367.00	12,845,000	
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	367,900	486.60	179,020,140	
8316	三井住友フィナンシャルグループ	19,800	3,164.00	62,647,200	
8354	ふくおかフィナンシャルグループ	135,000	358.00	48,330,000	
8358	スルガ銀行	13,900	1,808.00	25,131,200	
8411	みずほフィナンシャルグループ	333,700	166.10	55,427,570	
8613	丸三証券	13,700	1,190.00	16,303,000	
8715	アニコム ホールディングス	32,500	2,611.00	84,857,500	
8766	東京海上ホールディングス	4,700	3,936.00	18,499,200	
8570	イオンフィナンシャルサービス	10,100	2,522.00	25,472,200	

8572	アコム	118,600	503.00	59,655,800	
8591	オリックス	38,400	1,477.00	56,716,800	
8801	三井不動産	45,000	2,623.00	118,035,000	
8804	東京建物	17,700	1,303.00	23,063,100	
2183	リニカル	28,700	1,654.00	47,469,800	
2427	アウトソーシング	19,400	3,105.00	60,237,000	
4681	リゾートトラスト	23,000	2,601.00	59,823,000	
6037	ファーストロジック	5,700	2,880.00	16,416,000	
9616	共立メンテナンス	7,200	8,550.00	61,560,000	
	合 計	3,997,600		5,636,371,710	

(2) 株式以外の有価証券
該当事項はありません。

第2 信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

「日本債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
金銭信託		106,295,049
コール・ローン	268,666,901	8,490,057
国債証券	6,043,083,600	5,081,179,100
特殊債券	300,498,000	300,045,000
社債券	2,946,428,000	3,451,553,000
未収利息	29,372,809	26,860,842
前払費用	3,037,575	1,123,120
流動資産合計	9,591,086,885	8,975,546,168
資産合計	9,591,086,885	8,975,546,168
負債の部		
流動負債		
未払金	35,646,900	34,994,100
未払解約金	14,713,958	70,040,622
流動負債合計	50,360,858	105,034,722
負債合計	50,360,858	105,034,722
純資産の部		
元本等		
元本	1 6,942,775,530	6,150,988,984
剰余金		
剰余金又は欠損金()	2,597,950,497	2,719,522,462
元本等合計	9,540,726,027	8,870,511,446
純資産合計	9,540,726,027	8,870,511,446
負債純資産合計	9,591,086,885	8,975,546,168

(注1) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年7月23日から翌年7月22日までであります。

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
-------------------	---

(貸借対照表に関する注記)

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 期首		
期首元本額	平成26年2月28日 7,044,413,158円	平成27年2月28日 6,942,775,530円
期首からの追加設定元本額	1,774,002,364円	1,075,069,428円
期首からの一部解約元本額	1,875,639,992円	1,866,855,974円
元本の内訳*		
三菱UFJ DC金利連動アロケーション型バランス ファンド	1,282,607,189円	1,320,350,076円
三菱UFJ 日本債券ファンドF(適格機関投資家限 定)	160,422,865円	101,480,784円
三菱UFJ グローバルバランス(積極型)	238,120,303円	187,426,411円
三菱UFJ グローバルバランス(安定型)	544,076,112円	445,107,609円
三菱UFJ グローバルバランスVA	650,522,852円	237,890,345円
三菱UFJ 日本バランス20	190,790,031円	151,996,155円
三菱UFJ 日本バランス50	148,720,515円	119,266,467円
三菱UFJ 国内バランス20	1,886,338,094円	1,712,705,499円
三菱UFJ 国内バランス50	257,363,551円	225,778,917円
三菱UFJ <DC>日本債券ファンド	1,130,113,430円	1,186,065,994円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス20型	155,004,261円	169,101,741円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス40型	181,696,450円	182,506,811円
三菱UFJ <DC>グローバルバランス60型	116,999,877円	111,312,175円
(合計)	6,942,775,530円	6,150,988,984円
2 受益権の総数	6,942,775,530口	6,150,988,984口
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.3742円 (13,742円)	1.4421円 (14,421円)

* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区 分	（自平成26年2月28日 至平成27年2月27日）	（自平成27年2月28日 至平成28年2月29日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同 左
2 時価の算定方法	売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	同 左 同 左 同 左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
国債証券	123,042,300	342,210,500
特殊債券	439,000	381,000
社債券	227,000	12,695,000
合計	123,708,300	354,524,500

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（3）附属明細表

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

（2）株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評 価 額	備 考
国債証券	第5回利付国債（40年）	110,000,000	144,507,000	
	第7回利付国債（40年）	40,000,000	48,862,000	
	第323回利付国債（10年）	50,000,000	53,561,000	
	第325回利付国債（10年）	100,000,000	106,746,000	
	第326回利付国債（10年）	100,000,000	106,316,000	
	第328回利付国債（10年）	100,000,000	105,795,000	
	第329回利付国債（10年）	100,000,000	107,409,000	
	第330回利付国債（10年）	100,000,000	107,586,000	
	第333回利付国債（10年）	100,000,000	106,283,000	
	第334回利付国債（10年）	150,000,000	159,523,500	
	第335回利付国債（10年）	110,000,000	116,094,000	
	第336回利付国債（10年）	50,000,000	52,781,000	
	第338回利付国債（10年）	70,000,000	73,262,700	
	第339回利付国債（10年）	200,000,000	209,290,000	
	第23回利付国債（30年）	70,000,000	95,450,600	
第26回利付国債（30年）	60,000,000	80,712,000		

	第27回利付国債(30年)	50,000,000	68,392,000	
	第28回利付国債(30年)	50,000,000	68,566,000	
	第30回利付国債(30年)	60,000,000	80,166,600	
	第31回利付国債(30年)	70,000,000	92,162,000	
	第32回利付国債(30年)	40,000,000	53,615,200	
	第34回利付国債(30年)	80,000,000	105,912,800	
	第37回利付国債(30年)	30,000,000	37,764,900	
	第39回利付国債(30年)	60,000,000	75,636,000	
	第42回利付国債(30年)	100,000,000	121,033,000	
	第46回利付国債(30年)	100,000,000	115,817,000	
	第80回利付国債(20年)	100,000,000	120,541,000	
	第84回利付国債(20年)	50,000,000	60,126,500	
	第86回利付国債(20年)	30,000,000	37,120,500	
	第88回利付国債(20年)	50,000,000	62,102,000	
	第90回利付国債(20年)	70,000,000	86,525,600	
	第94回利付国債(20年)	50,000,000	61,635,500	
	第99回利付国債(20年)	100,000,000	124,272,000	
	第104回利付国債(20年)	90,000,000	112,488,300	
	第111回利付国債(20年)	70,000,000	89,178,600	
	第114回利付国債(20年)	120,000,000	152,054,400	
	第118回利付国債(20年)	130,000,000	163,442,500	
	第123回利付国債(20年)	100,000,000	127,591,000	
	第125回利付国債(20年)	100,000,000	129,313,000	
	第128回利付国債(20年)	70,000,000	87,472,700	
	第130回利付国債(20年)	30,000,000	37,072,500	
	第132回利付国債(20年)	80,000,000	97,708,000	
	第136回利付国債(20年)	90,000,000	108,579,600	
	第140回利付国債(20年)	120,000,000	146,840,400	
	第141回利付国債(20年)	20,000,000	24,478,800	
	第145回利付国債(20年)	160,000,000	195,875,200	
	第147回利付国債(20年)	130,000,000	156,707,200	
	第148回利付国債(20年)	150,000,000	178,075,500	
	第150回利付国債(20年)	100,000,000	116,566,000	
	第154回利付国債(20年)	100,000,000	112,168,000	
	国債証券 小計	4,260,000,000	5,081,179,100	
特殊債券	第12回韓国輸出入銀行	300,000,000	300,045,000	
	特殊債券 小計	300,000,000	300,045,000	
社債券	第1回パークレイズ・ピーエルシー	100,000,000	99,991,000	
	第12回ボスコ(2013)	100,000,000	100,095,000	
	第10回JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	200,000,000	200,146,000	
	第13回JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	100,000,000	100,147,000	
	第6回パークレイズ・バンク	100,000,000	100,057,000	
	第4回ビー・エヌ・ビー・パリバ	200,000,000	200,350,000	
	第20回ラボバンク・ネーデルランド	100,000,000	100,083,000	
	第22回ラボバンク・ネーデルランド	100,000,000	100,202,000	
	第47回日本電気	200,000,000	202,016,000	
	第12回パナソニック	200,000,000	201,818,000	
	第10回デンソー	100,000,000	100,481,000	
	第10回みずほコーポレート銀行	200,000,000	206,298,000	
	第5回三菱UFJ信託銀行(特定社債間限定同順位)	100,000,000	100,826,000	
	第62回アコム	100,000,000	100,011,000	
	第63回アコム	100,000,000	100,881,000	
	第64回アコム	100,000,000	101,438,000	
	第163回オリックス	100,000,000	100,923,000	
	第167回オリックス	100,000,000	100,793,000	
	第26回三菱UFJリース	100,000,000	101,434,000	
	第19回大和証券グループ本社	200,000,000	202,232,000	
	第39回野村ホールディングス	200,000,000	203,100,000	
	第383回東北電力	100,000,000	105,102,000	
	第469回東北電力	100,000,000	109,169,000	
	第416回九州電力	100,000,000	100,406,000	
	第424回九州電力	100,000,000	106,933,000	
	第426回九州電力	100,000,000	105,587,000	
	第2回ファーストリテイリング	100,000,000	101,034,000	
	社債券 小計	3,400,000,000	3,451,553,000	
	合計	7,960,000,000	8,832,777,100	

第2 信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

「日本短期債券マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

(1) 貸借対照表

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
金銭信託		92,610,937
コール・ローン	75,901,178	7,397,072
国債証券	314,460,000	
特殊債券	2,407,341,000	1,164,758,920
社債券	6,791,153,000	2,212,206,000
未収入金	200,560,000	
未収利息	15,211,639	6,335,944
前払費用	3,705,739	
流動資産合計	9,808,332,556	3,483,308,873
資産合計	9,808,332,556	3,483,308,873
負債の部		
流動負債		
未払金	103,676,000	
未払解約金	60,197,608	424,255
流動負債合計	163,873,608	424,255
負債合計	163,873,608	424,255
純資産の部		
元本等		
元本	8,691,101,477	3,127,211,052
剰余金		
剰余金又は欠損金()	953,357,471	355,673,566
元本等合計	9,644,458,948	3,482,884,618
純資産合計	9,644,458,948	3,482,884,618
負債純資産合計	9,808,332,556	3,483,308,873

(注1) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年7月23日から翌年7月22日までであります。

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	公社債は時価で評価しております。時価評価にあたっては、価格情報会社等の提供する理論価格で評価しております。
-------------------	---

(貸借対照表に関する注記)

	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 期首		
期首元本額	平成26年2月28日 4,939,442,661円	平成27年2月28日 8,691,101,477円
期首からの追加設定元本額	9,901,541,755円	4,146,893,253円
期首からの一部解約元本額	6,149,882,939円	9,710,783,678円
元本の内訳*		
三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド	8,887,168円	8,887,168円
地球温暖化対策株式ファンド	946,881円	946,881円
三菱UFJ 日本短期債券ファンド	5,275,727,740円	56,773,559円
日本短期債券ファンドVA(適格機関投資家限定)	158,500,262円	123,662,550円
日本短期債券ファンド(適格機関投資家限定)	92,786,816円	152,510,692円
三菱UFJ 積立ファンド(日本バランス型)	1,820,712,397円	1,634,482,012円
三菱UFJ T O P I X ・ ライト	559,397,001円	446,214,531円
三菱UFJ 日本バランス20	59,478,921円	48,405,900円
三菱UFJ 日本バランス50	46,363,717円	37,982,542円
三菱UFJ 国内バランス20	588,067,313円	545,441,862円
三菱UFJ 国内バランス50	80,233,261円	71,903,355円
(合計)	8,691,101,477円	3,127,211,052円
2 受益権の総数	8,691,101,477口	3,127,211,052口
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.1097円 (11,097円)	1.1137円 (11,137円)

* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

（金融商品に関する注記）

1 金融商品の状況に関する事項

区 分	（自平成26年2月28日 至平成27年2月27日）	（自平成27年2月28日 至平成28年2月29日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、公社債等に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありませぬ。	同 左
2 時価の算定方法	売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	同 左 同 左 同 左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	[平成27年2月27日現在]	[平成28年2月29日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
国債証券	273,000	
特殊債券	258,000	583,760
社債券	23,922,000	7,488,000
合計	23,391,000	8,071,760

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

（デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。

（3）附属明細表

第1 有価証券明細表

（1）株式

該当事項はありません。

（2）株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	券面総額	評 価 額	備 考
特殊債券	第66回政府保証日本高速道路保有・債務返済機構債券	200,000,000	207,960,000	
	第30回公営企業債券（財投機関債）	100,000,000	104,585,000	
	第11回阪神高速道路	100,000,000	100,909,000	
	第39回日本政策金融公庫（財投機関債）	100,000,000	100,645,000	
	第194回政府保証中小企業債券	122,000,000	126,801,920	
	い第762号農林債券	100,000,000	100,809,000	
	第284回信金中金債	100,000,000	100,969,000	
	第187号商工債券（3年）	100,000,000	100,403,000	
	第12回韓国輸出入銀行	100,000,000	100,015,000	
	第21回東日本高速道路	120,000,000	121,662,000	
	特殊債券 小計	1,142,000,000	1,164,758,920	
社債券	第16回フランス相互信用連合銀行	100,000,000	100,320,000	
	第12回ボスコ（2013）	100,000,000	100,095,000	
	第23回GEキャピタルコーポレーション	100,000,000	100,117,000	

第9回ゴールドマン・サックス・グループ・インク	100,000,000	101,587,000	
第17回ルノー	100,000,000	99,458,000	
第4回ピー・エヌ・ピー・パリバ	100,000,000	100,175,000	
第5回オーストラリア・コモンウェルス銀行	100,000,000	100,223,000	
第22回ラボバンク・ネダーランド	100,000,000	100,202,000	
第17回積水ハウス	100,000,000	100,215,000	
第10回セブン&アイ・ホールディングス	100,000,000	100,359,000	
第13回トヨタ自動車	100,000,000	100,055,000	
第33回みずほコーポレート銀行	100,000,000	100,846,000	
第12回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	100,000,000	102,890,000	
第5回三菱UFJ信託銀行(特定社債間限定同順位)	100,000,000	100,826,000	
第5回住友信託銀行(劣後特約付)	100,000,000	100,315,000	
第32回日産フィナンシャルサービス	100,000,000	100,196,000	
第62回アコム	100,000,000	100,011,000	
第138回オリックス	100,000,000	102,365,000	
第409回中部電力	100,000,000	101,186,000	
第446回関西電力	100,000,000	100,077,000	
第416回九州電力	100,000,000	100,406,000	
第1回ファーストリテイリング	100,000,000	100,282,000	
社債券 小計	2,200,000,000	2,212,206,000	
合計	3,342,000,000	3,376,964,920	

第2 信用取引契約残高明細表
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表
該当事項はありません。

2【ファンドの現況】
【純資産額計算書】

平成28年3月31日現在
(単位：円)

資産総額	794,288,217
負債総額	969,316
純資産総額(-)	793,318,901
発行済口数	732,114,191 口
1口当たり純資産価額(/)	1.0836 (1万口当たり 10,836)

<参考>

「日本株式マザーファンド」の現況
純資産額計算書

平成28年3月31日現在
(単位：円)

資産総額	6,411,885,971
負債総額	148,923,067
純資産総額(-)	6,262,962,904
発行済口数	2,720,133,536 口
1口当たり純資産価額(/)	2.3024 (1万口当たり 23,024)

<参考>

「日本債券マザーファンド」の現況
純資産額計算書

平成28年3月31日現在
(単位：円)

資産総額	9,736,222,403
負債総額	6,568,321
純資産総額(-)	9,729,654,082
発行済口数	6,677,585,934 口
1口当たり純資産価額(/)	1.4571 (1万口当たり 14,571)

第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

（1）名義書換

委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

したがって、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

（2）受益者等に対する特典

該当事項はありません。

（3）譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

（4）受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

（5）受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

（6）受益権の再分割

委託会社は、受託会社と合意のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できます。

（7）質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付け、解約代金および償還金の支払い等については、信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

第二部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

1【委託会社等の概況】

報告書代替書面における「委託会社等の概況」の記載のとおりです。

報告書代替書面については、（<http://www.am.mufg.jp/corp/profile/accounting.html>）でもご覧いただけます。

2【事業の内容及び営業の概況】

報告書代替書面における「事業の内容及び営業の概況」の記載のとおりです。

3【委託会社等の経理状況】

報告書代替書面における「委託会社等の経理状況」の「冒頭書面」の記載のとおりです。

（1）【貸借対照表】

報告書代替書面における「委託会社等の経理状況」の（1）「貸借対照表」の記載のとおりです。

（2）【損益計算書】

報告書代替書面における「委託会社等の経理状況」の（2）「損益計算書」の記載のとおりです。

（3）【株主資本等変動計算書】

報告書代替書面における「委託会社等の経理状況」の（3）「株主資本等変動計算書」の記載のとおりです。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常の実行の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

5【その他】

定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称：三菱UFJ信託銀行株式会社

(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

資本金の額：324,279百万円(平成27年9月末現在)

事業の内容：銀行業務および信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成27年9月末現在)	事業の内容
株式会社北都銀行	11,000 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社七十七銀行	24,658 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社武蔵野銀行	45,743 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社福井銀行	17,965 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社紀陽銀行	80,096 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社宮崎銀行	14,697 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社沖縄銀行	22,725 百万円	銀行業務を営んでいます。
株式会社栃木銀行	27,408 百万円	銀行業務を営んでいます。

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社：ファンドの受託会社として、信託財産の保管・管理等を行います。

(2) 販売会社：ファンドの募集の取扱い、解約の取扱い、収益分配金・償還金の支払いの取扱い等を行います。

3【資本関係】

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。(平成28年3月末現在)

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の51.0%(107,855株)を所有しています。

(注) 関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

第3【参考情報】

1 当計算期間において、次の書類を関東財務局長に提出しております。

平成27年11月26日	半期報告書、有価証券届出書の訂正届出書
平成27年6月30日	有価証券届出書の訂正届出書
平成27年5月26日	有価証券報告書、有価証券届出書

2 その他

- (1) 目論見書の表紙にロゴマーク、図案およびキャッチ・コピーを採用すること、またファンドの形態、申込みに係る事項などを記載することがあります。
- (2) 投資信託説明書（請求目論見書）に信託約款を掲載します。
- (3) 目論見書に以下の内容を記載することがあります。
- ・当ファンドの受益権の価額は、株式・公社債等の有価証券市場の相場変動、組入有価証券の発行者の信用状況の変化等の影響により変動し、下落する場合があります。したがって、投資家のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。
 - ・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。
 - ・運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。
 - ・投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
 - ・金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。
 - ・当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
- (4) 目論見書は電磁的方法により提供されるほか、インターネット、電子媒体等に掲載されることがあります。
- (5) 投信評価機関、投信評価会社等からファンドに対するレーティングを取得し、当該レーティングを使用することがあります。
- (6) 目論見書は「投資信託説明書」を別称として使用します。
- (7) 目論見書に委託会社のホームページアドレスのほか、モバイルサイトのアドレス（当該アドレスをコード化した図形等を含みます。）等を掲載し、当該アドレスにアクセスすることにより基準価額等の情報を入手できる旨のご案内を記載することがあります。

独立監査人の監査報告書

平成28年3月31日

三菱UFJ国際投信株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 柴 毅 印
業務執行社員指定社員 公認会計士 大畑 茂 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている三菱UFJ国内バランス50の平成27年2月28日から平成28年2月29日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJ国内バランス50の平成28年2月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。